

太陽光発電量予測技術コンテスト『PV in HOKKAIDO』結果

賞	受賞者(敬称略)	受賞理由
グランプリ	株式会社東芝 研究開発センター	独自の数値予報モデルと機械学習の組み合わせなどで高精度を実現。予測に必要な要素を自前の技術でカバーするなど精度と実用性の面で総合力の高さが評価された。精度向上に関する考察を定量的に説明したビデオ、レポートも高評価を得た。
準グランプリ	東京理科大学 工学部 電気工学科 植田研究室	入手が容易な気象庁の予測値を使用する手法を徹底的に追求し高い精度を実現。実業務への取込みや、精度向上などの方向性が得やすいモデルにより、実用性、発展性ともに高い。提案手法のオリジナリティや考察をわかりやすくまとめたビデオ、レポートも高評価を得た。
精度賞1位	Tangent Works	モデルを自動的かつ即時に構築する高度な機械学習により、応募者の中で最も高い精度を達成した。
精度賞2位	東京理科大学 工学部 電気工学科 植田研究室 ※準グランプリと同時受賞	(準グランプリの欄を参照)
精度賞3位	株式会社Synspective	パネルへの日射入射角を学習用の入力として導入するなどの工夫と機械学習の活用により高精度を実現した。
手法賞 (実用性)	チーム『PV-4cast』 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 太陽光発電研究センター システムチーム 東京大学 生産技術研究所 荻本研究室)	入手が容易な気象庁の予測値のみを使い、複数の機械学習を組み合わせる手法は実用性が高い。
手法賞 (発展性)	北見工業大学 前田康成	エリア一括予測にチャレンジ。北海道外の気象データ活用など興味深い工夫がなされ、今後の発展性が期待できる。
特別賞	慶応義塾大学 理工学部 滑川研究室	天気予報データのみで予測する非常に簡易なモデルが特徴的。
	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 エネルギービジネス推進部	北海道東部地域で発生しやすい霧の影響を考慮した点が特徴的。